

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(みちびき・はぐくみ)

「科学を通して地域コミュニケーションを図る 手作りの『科学館』」事業

空きアパートをDIYで改修した手作りの科学館で 市民や子どもたちと科学コミュニケーション

2018年1月14日、千葉県のJR柏駅近くに空きアパートを活用して作り上げたという「科学館」がグランドオープンした。大学院生らのメンバーで構成された市民団体「柏の葉サイエンスエデュケーションラボ」が運営する科学館は、気軽に科学に触れることができ、地域住民や子どもたちが日常的に科学についてのコミュニケーションを図ることができる拠点として期待される。



1年半かけてDIYで作った「手作り科学館 Exedra(エクセドラ)」



1階はくつろぐこともできる展示室と実験室

ボランティアが手作りで作り上げた科学館で 気軽に科学に触れられる時間を創出

JR柏駅西口に程近い路地の一角にある築30年を超えるという2階建てアパート。空き家となったアパートを所有者の厚意で無償利用できることになり、「柏の葉サイエンスエデュケーションラボ」(以下、KSEL)では、2016年8月にDIYによる内部改装をスタートさせた。会長を務める羽村太雅さんは、「予想をはるかに超える難工事でした」と、その模様を振り返る。

「改装には、メンバーを中心にのべ200名がボランティアで参加してくれました。サイエンスを専門とする人たちが、当然ながら改装工事はズブの素人。壁を抜き、水回りや照明を整備し、床を張り、什器や備品類を選定してと、とにかく大変でした。それに加えて、ボランティアの作業への参加の可否の確認、モチベーションを維持するための

声かけ、関係先へのあいさつ回りなど、マネジメント面での苦労もありました」

1年半近くかけて完成した「手作り科学館 Exedra(エクセドラ)」は、1階が展示室と実験室、2階が事務所兼倉庫となっている。展示室には科学に関する未就学児向けの絵本や図鑑、入門書などのほか、KSELが主催する「理科の修学旅行」で採集した化石や自由研究の成果物などが陳列されている。全体的にゆったりとしたスペースが特徴だが、「展示室は解説員として常駐しているスタッフと話したり、展示物を見てもらうことがメインですので、そのための空間作りを心がけました。子どもだけでなく、大人も寛げる場になりたいと思っています」と、羽村さん。

科学館は土・日曜開館(10:00~17:00)で、入館料は初回600円(月間パス800円、年間パス5,000円)となっている。

科学コミュニケーションによる地域活性化と 科学に親しむきっかけとなる拠点を目的に

KSELは科学コミュニケーションによる地域活性化を目指し、次世代を担う子どもたちをはじめとする地域住民が身近なところから科学に興味を持つきっかけを提供する目的で、2010年に東京大学と慶応義塾大学の大学院生4名によって創設された団体で、現在、大学院生・学部生、社会人、主婦など40名弱の幅広いメンバーで構成されている。

柏の葉地区を主な活動エリアとして、天体観望会、宇宙の話、砂の科学、雪の科学、各種の実験・工作教室など、科学をテーマにした講座や合宿などを年間100本ほど実施しているほか、小学生から高校生までを対象に、アウトドア体験しながら自然の中にある不思議な現象のルーツを探る人気企画「理科の修学旅行」、大人を対象に、

お茶とともに科学の話を楽しむ「サイエンスカフェ」などの活動を行っている。

また、街全体を科学館に見立てて展示物を設置した「街まるごと科学館」(2015年6月~9月)の活動は新聞などのマスコミにも取り上げられてきたが、「科学は難しい、とっつきにくい」という風潮のなかで、スタッフと話しながら、いつでも気軽に科学に触れられ、子どもも大人も寛いで科学コミュニケーションを図れる定常的な場所が必要(羽村さん)という思いが、手作り科学館 Exedraの発想へとつながったという。

KSELでは、その第一弾企画として、小学生から大人までを対象にした初学者向け天文講座「アストロトーク」を実施(2017年10月~18年3月)したが、備品購入などを含めた改装工事全般と同講座の企画運営、広報活動などにAJOSCの助成が活用された。



約200名のボランティアが手作りで内装を手がけた



初学者向け天文講座「アストロトーク」を告知するチラシ

助成団体: 柏の葉サイエンスエデュケーションラボ

<http://udcx.k.u-tokyo.ac.jp/KSEL>



子どもを含めた一般の方々に科学に興味を持ってもらうために

当初の考えが甘く、工事開始後、あっという間に資金が底をつくなかで、助成いただき、大いに助かりました。今後はExedraに足を運んでもらうための周知活動に努めていくことと、20、30代の若い世代、特に将来、生まれてくる子どもの母親になる女性に科学へのアレルギーを無くしてもらおうような活動に取り組んでいきたいと思っています。

柏の葉サイエンスエデュケーションラボ
会長 羽村太雅さん